

君がため
(坂本龍馬)

解説 福井藩で藩政改革を担っていた横井小楠を坂本龍馬が訪ねた折に、福井藩の三岡八郎(後の由利公正)と酒を酌み交わしていた時に詠んだ歌と言われます。

君がため 捨つる 命は 惜しまねど

語釈 ※君が為||天皇のために。 ※捨つる||捨てる。 ※行末||進んで行く末の所。 はるか遠くの行きつく先。

心に かかる 国の 行末

通釈 国を良くするために天皇のために命を落とすについては何も怖くもないし、惜しくもないがこのままでは、この日本がどうなってしまうのか、それだけが気がかりである。